

2019年7月28日

福音書からのメッセージ

そこで、わたしは言うておく。求めなさい。そうすれば、与えられる。探しなさい。そうすれば、見つかる。門をたたきなさい。そうすれば、開かれる。

(ルカによる福音書 11 章 9 節)

「祈り」、わたしたちは祈りについて、どのような思いをもっているのでしょうか。今日の場面でイエス様の弟子たちは、「わたしたちにも祈りを教えてください」とイエス様に言います。その言葉には、「祈りたい、でもどうやって祈ったらよいのかわからない」という思いが込められています。わたしたちはどうでしょうか。「祈りたい」と心から願っているのでしょうか。その思いがなければ、今日の言葉は心に届かないのかもしれない。

イエス様は一つのたとえ話をされます。真夜中に友達が来て、パンを貸してくださいと頼みます。しかし真夜中のことですから、最初は当然断られます。けれどもしつように頼めば、その人は起きてきて、必要なものは何でも与えられるだろうという話です。これはあくまでも、「祈り」ということをテーマに、イエス様が語られた「たとえ」です。そしてこの話の中に、キーとなる語があります。それは「しつように」という言葉です。ただ玄関先で「パンを貸してください」と頼み、断られたら次の家に向かったというわけではありません。しつように頼み、そして必要な物を手に入れたという話です。

「しつよう」という言葉には、「しつこいさま。自分の意見にいつまでもこだわりつづけるさま。えこじ。がんこ」という意味があります。原文の意味をみても、「恥知らず。ずうずうしい」、いずれにせよとても否定的な言葉が並びます。つまりこういうことです。パンを貸してほしい、その



思いでやってきた友達は、しつこく、自分にこだわり、意地を張り通し、頑固に、恥知らずだと思われても、図々しいと思わ

れても、それでも頼み続けた。それが祈りだと、イエス様は言われているのです。

しつように求め、しつように探し、しつように門をたたく。そのときに神さまは応えてくださる。それは何故か。わたしたちと神さまとの関係が、そのようなものだからです。イエス様は、祈るときには「父よ」と祈るように言われました。「アッパ」というその言葉は、ギリシア語では幼児語です。赤ちゃんがお父さんを呼ぶときに使う言い方です。「お父ちゃん」、そんなニュアンスになります。

わたしたちの祈りは、そのようなところに届けられている。遠く天の上から見下ろしている方ではなく、いつもそばにいて、「この子、大丈夫だろうか」と心配して下さる方、優しい目で見守り、その願いにじっと耳を傾けてくださる方が、わたしたちの祈りの対象である神さまの姿なのです。わたしたちは神さまと、そのような関係の中にいるのです。

わたしたちは願い、求めていいのです。必死にすぎり、泣きついてもいいのです。しつように神さまに祈るときに、神さまはわたしたちに良い物をくださるのです。

桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>